

「農学部卒業生の満足度アンケート」
の分析結果報告書

九州大学農学部学務委員会

平成 25 年 2 月

目 次

1. アンケートの概要	1
2. アンケートの分析結果	
1) 学部全体	4
2) 農学分野	6
3) 地域環境工学分野	8
4) 生物生産システム工学分野	10
5) 農政経済学分野	12
6) 農芸化学分野	14
7) 食糧化学工学分野	16
8) 地球森林科学コース	18
9) 畜産学分野	20
10) 水産学分野	22

1. アンケートの概要

農学部学務委員会では、平成 19 年度より毎年度、農学部卒業生を対象に、在学時の満足度について無記名のアンケートを行っている。本報告書は、平成 19 年度から平成 23 年度における 5 年間のアンケート結果について、分析を行ったものである。

アンケートに当たっては、2 頁で図示したアンケート票を使用した。アンケート票に示されているとおり、質問項目は「教育カリキュラム」、「教員について」、「学習研究支援・環境」、「進学・就職支援」及び「総合判定」に大きく分類され、卒業生が大学に対して感じた満足度を、様々な視点から分析できるように構成されている。

アンケート結果を分野ごとに集計したものが、次節の図である。図を参照するに当たっては、図の棒グラフ中の数値が、アンケートの各質問項目に対する卒業生の回答率を表すことに留意されたい。また、図の上には、平成 19 年度から平成 23 年度における、学部全体または各分野の卒業生数とアンケート回収率を表記している。なお、「森林機能制御学分野」、「森林機能開発学分野」及び「生物材料機能学分野」の 3 分野については、「地球森林科学コース」として 1 つのカリキュラムで教育を行っていることから、本報告書では、3 分野を集計し、「地球森林科学コース」として分析を行った。

各分野におけるアンケート結果の分析は、学部全体の結果と比較する形で行った。具体的には、質問項目ごとに、回答番号 3（おおむね有意義であった・おおむね見出せた・おおむね満足・やや当てはまる）及び回答番号 4（大変有意義であった・充分に見出せた・満足・当てはまる）と回答した卒業生の割合について、各分野と学部全体の差（＝各分野の数値－学部全体の数値）を求め、その差を次のように表記した。

+10 ポイント以上 : 極めて高い

+5～+10 ポイント : 高い

-5～+5 ポイント : 同程度

-10～-5 ポイント : 低い

-10 ポイント以下 : 特に低い

※ただし、同程度の範囲内で高低を言う場合は、僅かに高い、僅かに低いとする。

つまり、各分野における満足度が、学部全体と比較してどの程度高かったのか（低かったのか）を、統一的な評価基準をもって分析した。また、分析結果から明らかになった学部全体及び各分野における今後の課題についても、合わせて記述した。

図 満足度アンケート票

学生(学部)の満足度アンケート(解答はすべて1～4の番号でお答え下さい)

所属する分野に○をつけてください。

1. 農学分野 2. 地域環境工学分野 3. 生物生産システム工学分野 4. 農政経済学分野
5. 農芸化学分野 6. 食糧化学工学分野 7. 森林機能制御学分野 8. 森林機能開発学分野
9. 生物材料機能学分野 10. 畜産学分野 11. 水産学分野

1. 教育カリキュラム

Q.1-A: 専攻教育科目(80単位分)における講義はどの程度有意義だったと思いますか?

1. 有意義でなかった 2. あまり有意義でなかった 3. おおむね有意義であった
4. 大変有意義であった

Q.1-B: 専攻教育科目における実験・演習はどの程度有意義だったと思いますか?

1. 有意義でなかった 2. あまり有意義でなかった 3. おおむね有意義であった
4. 大変有意義であった

Q.1-C: 専攻教育科目における卒業研究はどの程度有意義だったと思いますか?

1. 有意義でなかった 2. あまり有意義でなかった 3. おおむね有意義であった
4. 大変有意義であった

Q.1-D: 全学教育科目と専攻教育科目の間に関連性を見出せましたか?

1. 見出せなかった 2. やや見出した 3. おおむね見出した 4. 充分に見出した

Q.1-E: 準備された専攻教育科目の科目数や科目の種類にどの程度満足できましたか?

1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足

2. 教員について 下記に挙げた項目はあなたが受けた教育にどの程度あてはまりますか?

- (1. あてはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる)

Q.2-A: 勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員に出会った (1 2 3 4)

Q.2-B: 学習方法などに対して助言をしてくれる教員に出会った (1 2 3 4)

Q.2-C: 情熱をもって授業を行なう教員に出会った (1 2 3 4)

Q.2-D: 学生の授業理解度を深めるため多大な努力をする教員に出会った (1 2 3 4)

3. 学習研究支援・環境 下記のA～Dの項目についてどの程度満足していますか?

- (1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足)

Q.3-A: シラバスの記載内容 (1 2 3 4)

Q.3-B: コース、分野の選択に際してのオリエンテーション (1 2 3 4)

Q.3-C: 研究室やキャンパスの学習研究施設・設備 (1 2 3 4)

Q.3-D: 成績評価方法の開示 (1 2 3 4)

Q.3-E: 卒業研究に対する支援 (1 2 3 4)

4. 進学・就職支援

Q.4: 進学や就職に対する大学側の支援状況についてどの程度満足していますか?

1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足

5. 総合判定

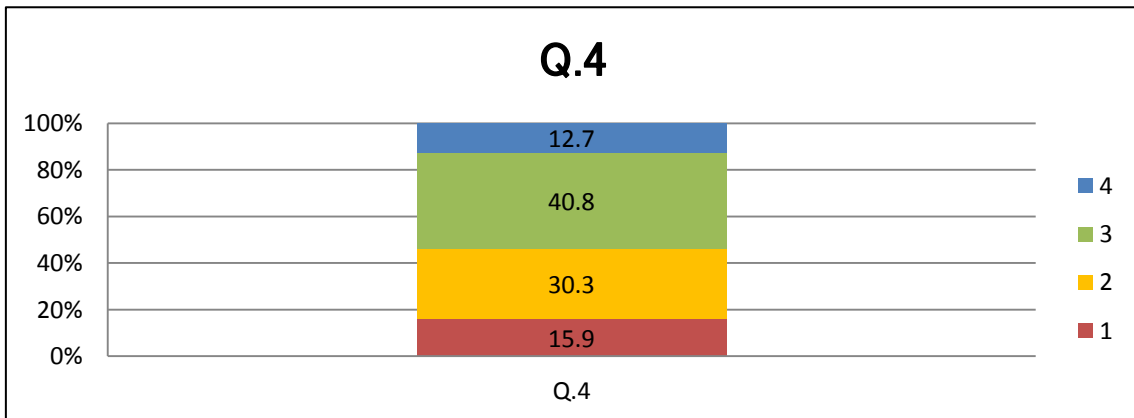
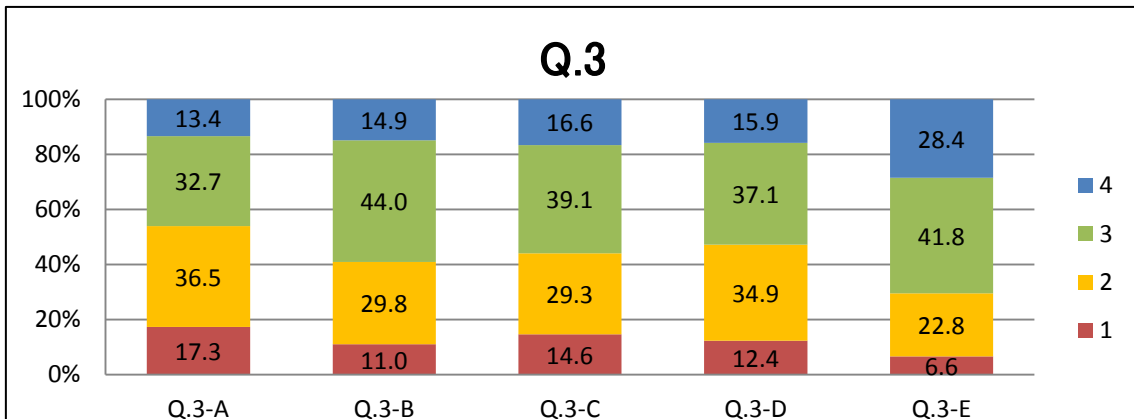
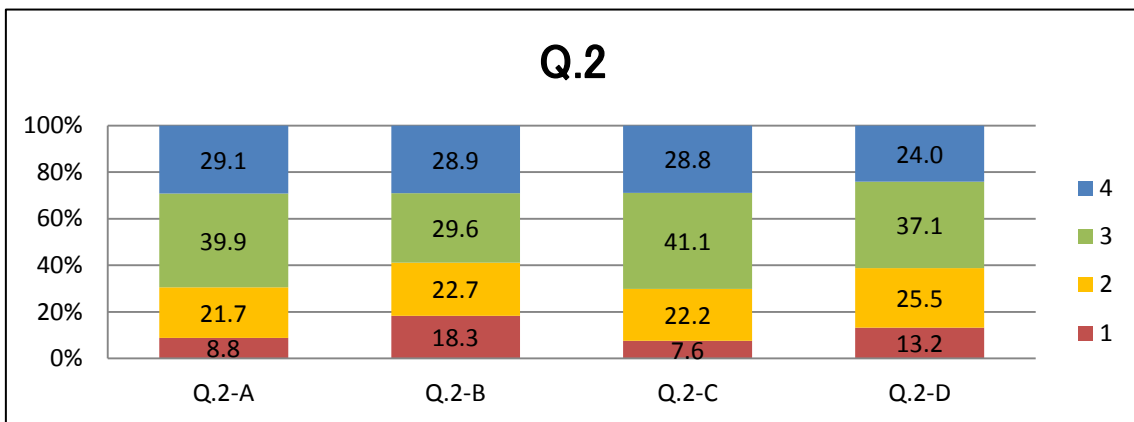
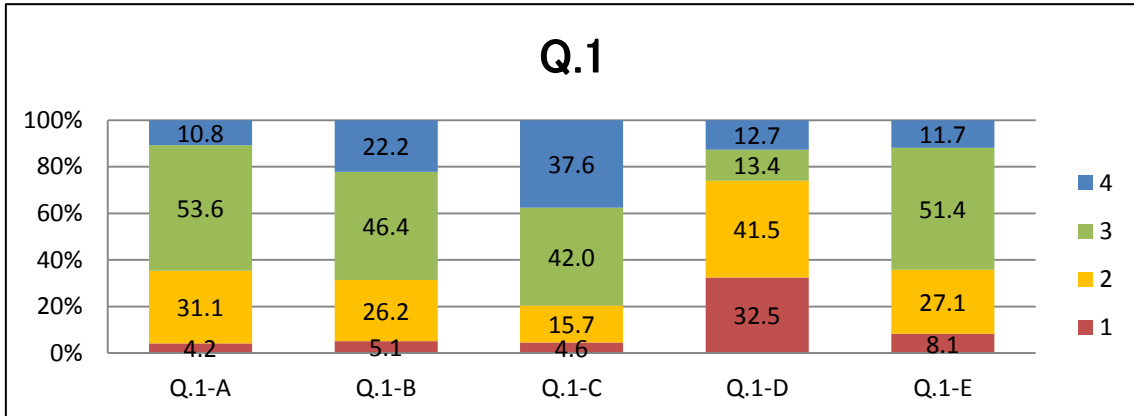
Q.5: 総合的に判断して、あなたはこの学部を選択して満足していますか?

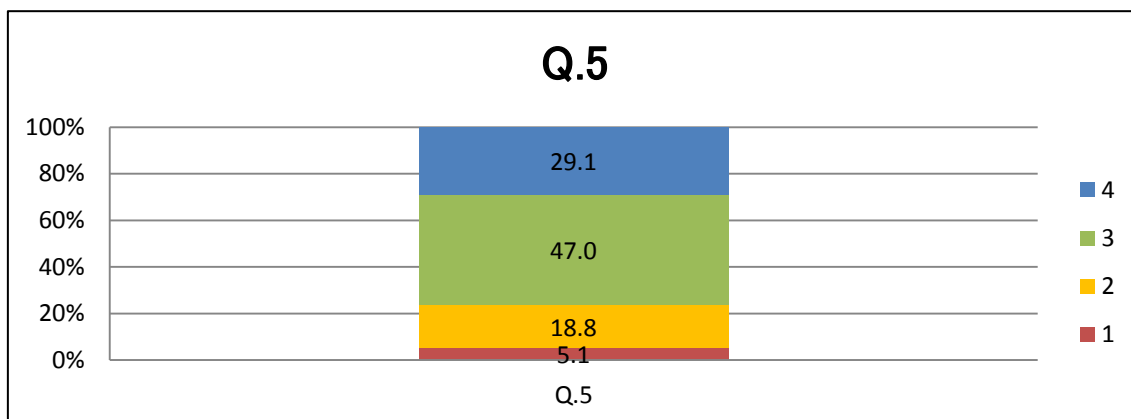
1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足

自由筆記欄

2. アンケート分析の結果

1) 学部全体 (回収率 50.7%, 卒業生数 1,165 人)





【分析結果】

学部全体では、総合判定で76%の学生が満足している。

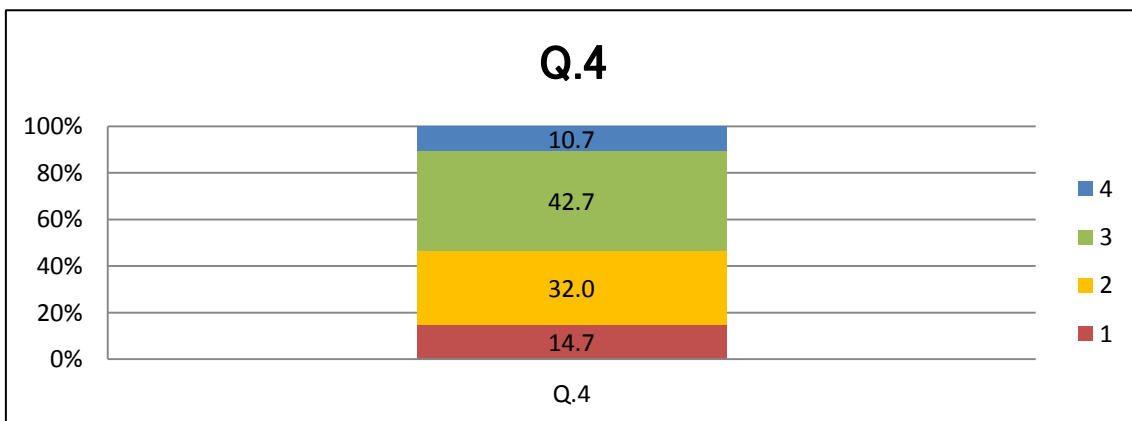
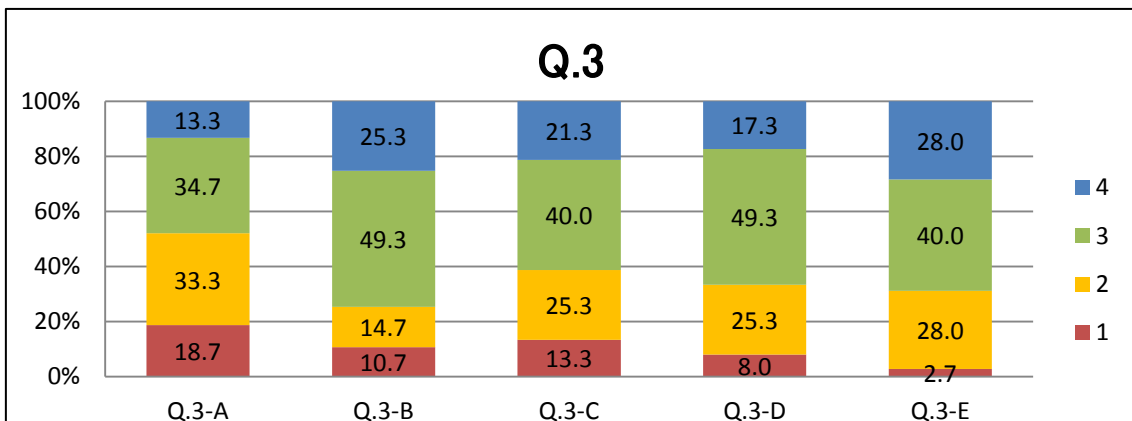
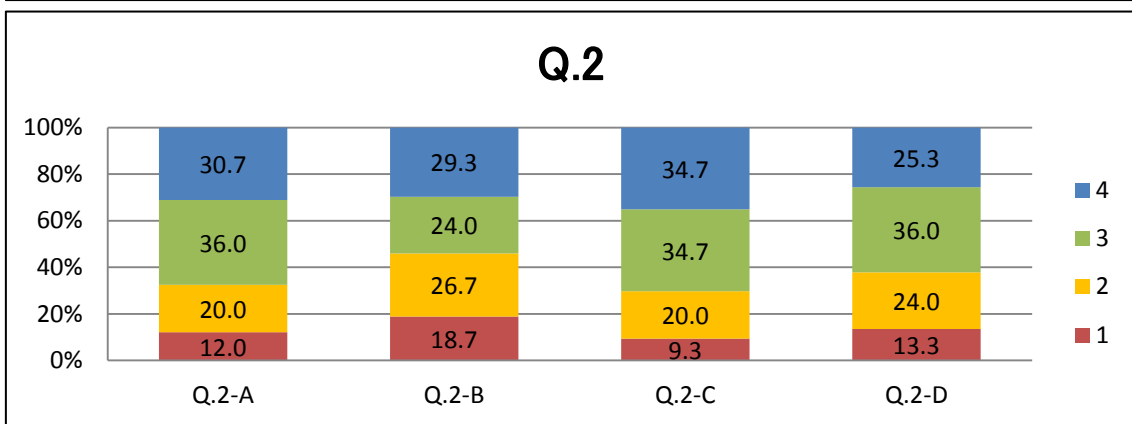
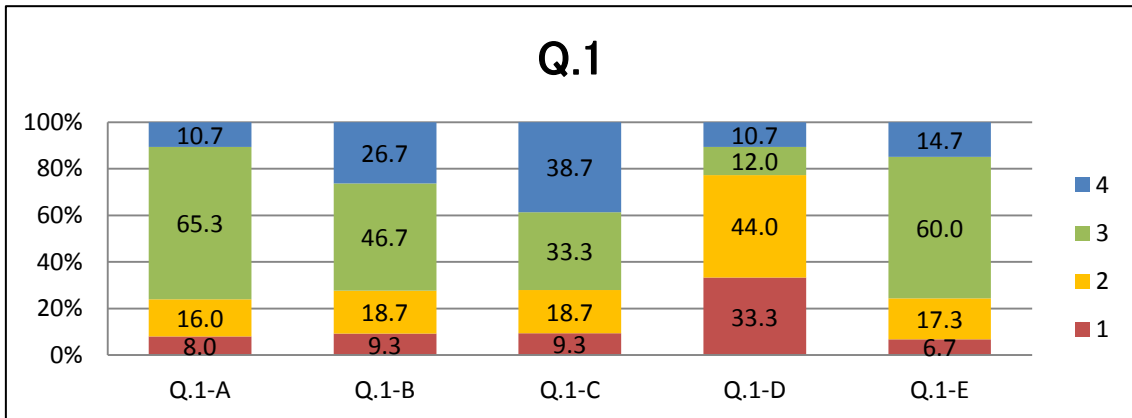
70%以上の学生が満足している項目は、「卒業研究」、「情熱をもって授業を行なう教員」及び「卒業研究に対する支援」である。60%以上にすると、「専攻教育科目（80単位分）の講義」、「専攻教育科目における実験・演習」、「準備された専攻教育科目の数や種類」、「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」及び「授業理解度を深めるため多大な努力をする教員」が加わる。

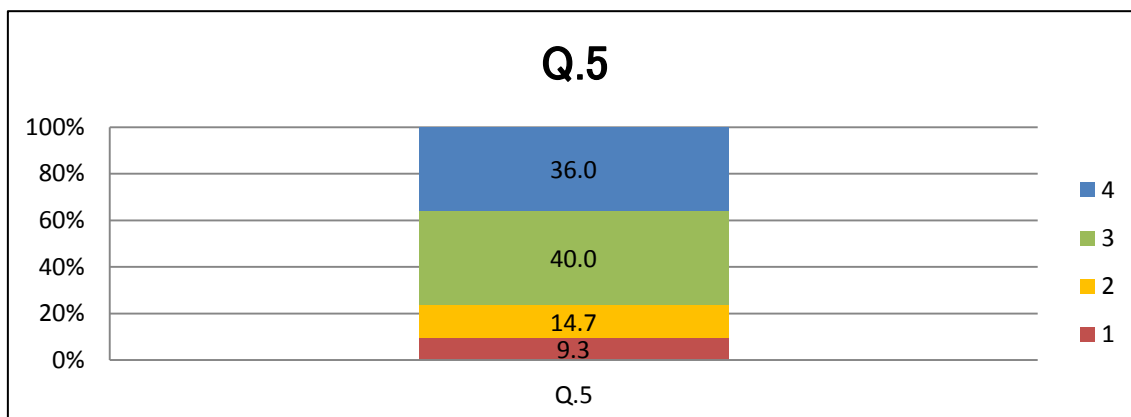
一方、「シラバスの記載内容」に満足しているのは46%であり、「全学教育科目と専門教育科目との関連性」では74%の学生が満足していない。

【今後の課題】

卒業生の46%しか満足していない「シラバスの記載内容」及び74%が満足していない「全学教育科目と専門教育科目との関連性」に関して、改善を図ることが今後の課題である。「シラバスの記載内容」に関しては、学期が始まる前に全教員宛に確認依頼をしているところであるが、「昨年度と同じなのでそのままにしていたところ、再入力が必要があった」など、システム変更などの要因もあり、未だ混乱している一面もある。利便性を高めるとともに、学期の始めに必ず確認するようシステム内に確認ボタンを設置し、未確認科目が迅速にわかるような措置を講じる必要もあるであろう。「全学教育科目と専門教育科目との関連性」に関して、カリキュラム変更により対応してきたところであるが、過度に関連性を求める必要もないかもしれない。これについては、学務委員会で議論する必要があるであろう。

2) 農学分野 (回収率 50.3%, 卒業生数 149 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は同程度である。

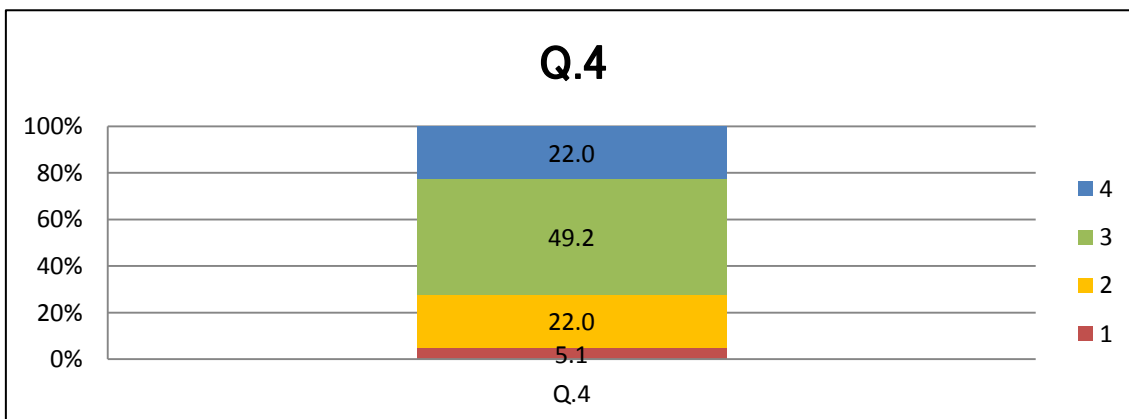
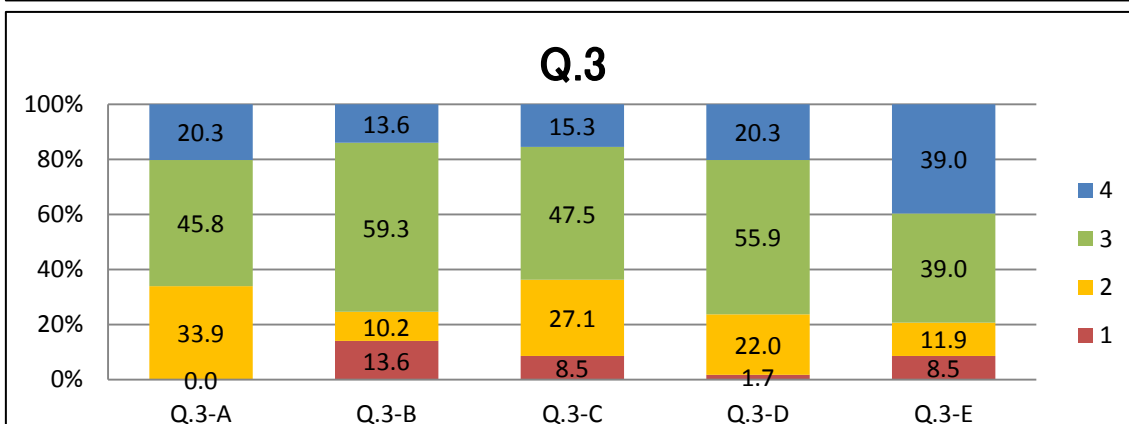
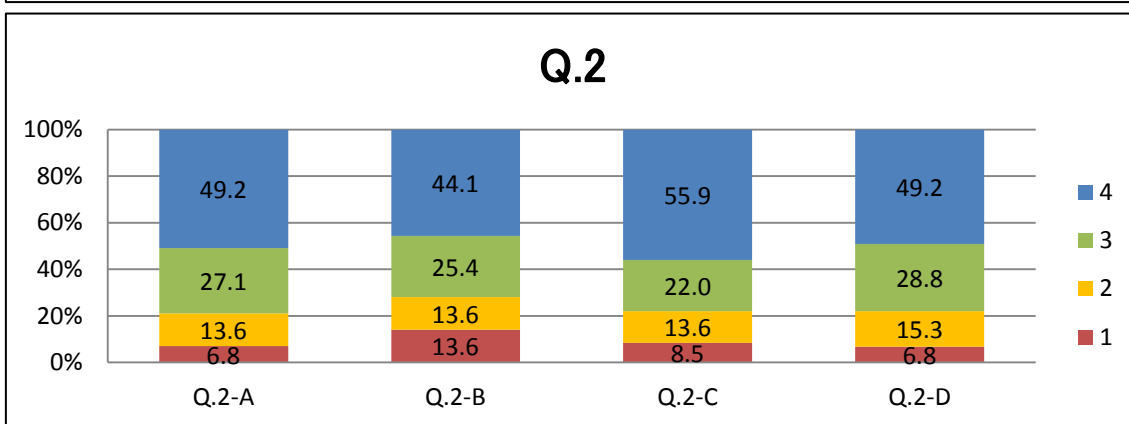
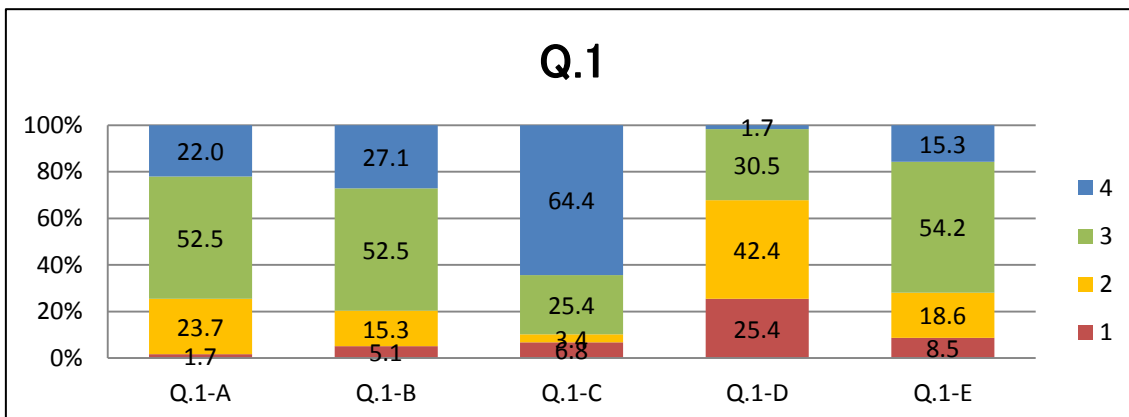
しかし，「専攻教育科目（80 単位分）の講義」，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」及び「成績評価方法の開示」に関する満足度は，学部全体と比較して極めて高い。また，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」に関する満足度も高い。

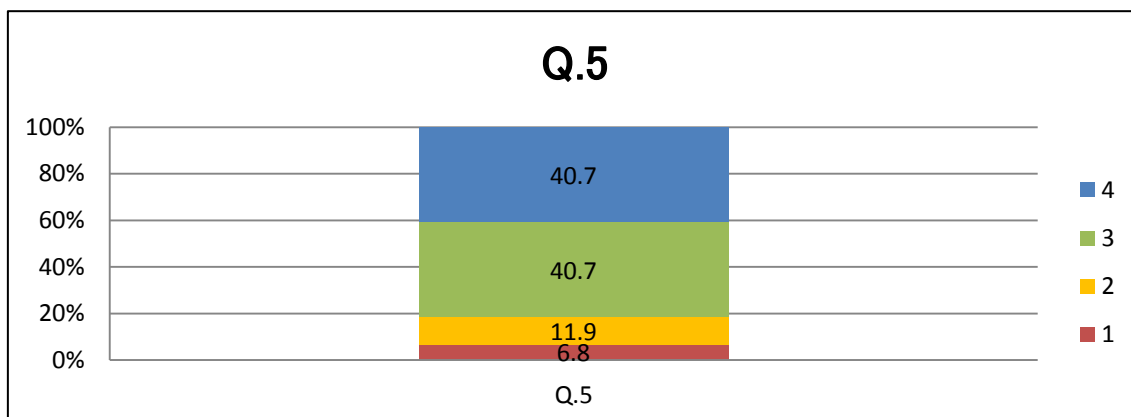
一方，「卒業研究」及び「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」に関する満足度は，学部全体と比較して低い。学部全体と比較して，特に低い満足度はない。

【今後の課題】

学部全体と比較して満足度が低い「専攻教育科目における卒業研究はどの程度有意義だった」及び「学習方法などに対して助言をしてくれる教員に出会った」に関して，改善していくことが今後の課題である。「専攻教育科目における卒業研究はどの程度有意義だった」に関しては，各学問分野における研究意義について理解を促す等の対策を施すことによって，満足度がより高くなるよう改善をしていくことが必要であろう。一方，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員に出会った」に関しては，学生に対してさらなる助言や積極的な指導を行い，学習を円滑に進められるようにしていくこと等が必要であろう。

3) 地域環境工学分野 (回収率 59.0%, 卒業者数 100 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は高い。

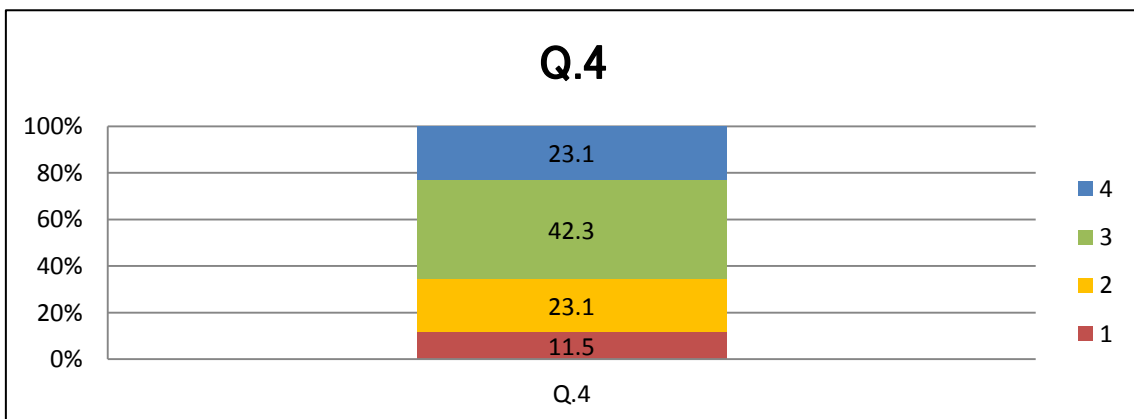
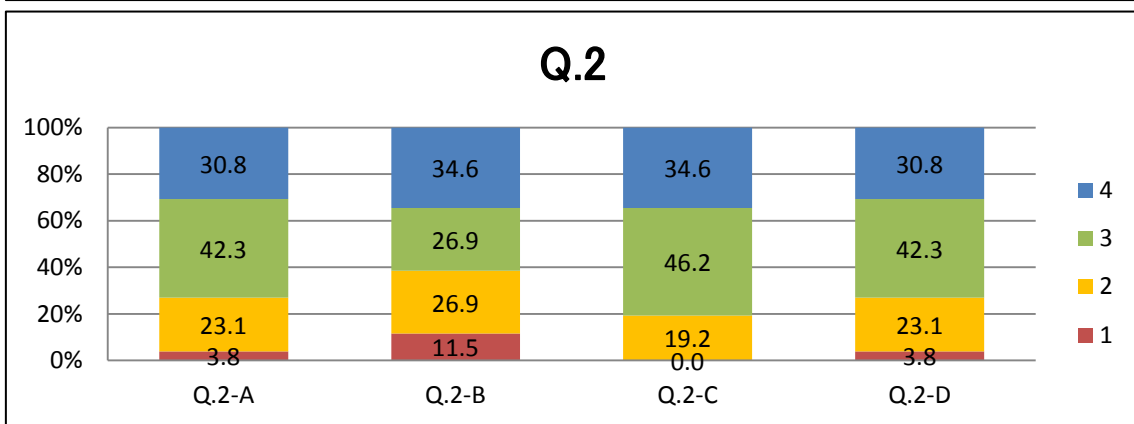
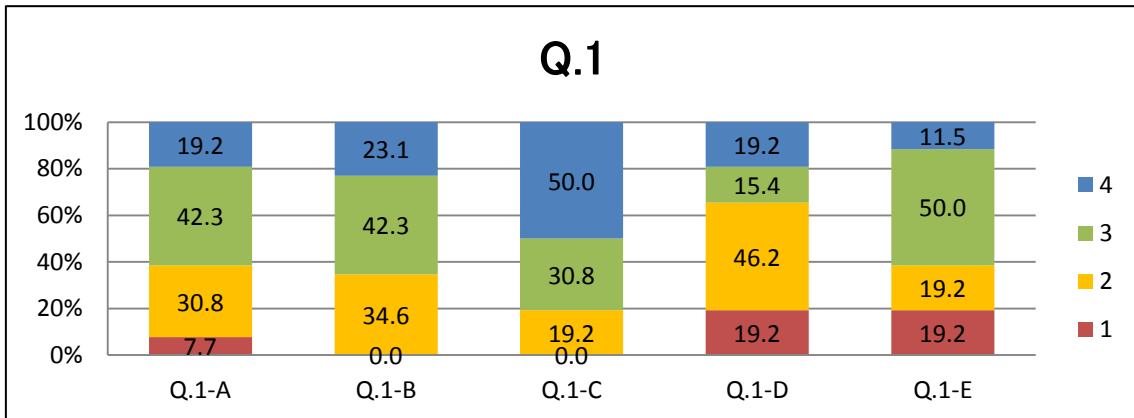
「専攻教育科目（80 単位分）の講義」，「専攻教育科目における実験・演習」，「卒業研究」，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」，「授業理解度を深めるため多大な努力をする教員」，「シラバスの記載内容」，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」，「成績評価方法の開示」及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度が，学部全体と比較して極めて高い。また，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」，「情熱をもって授業を行なう教員」，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」及び「卒業研究に対する支援」に関する満足度も高い。

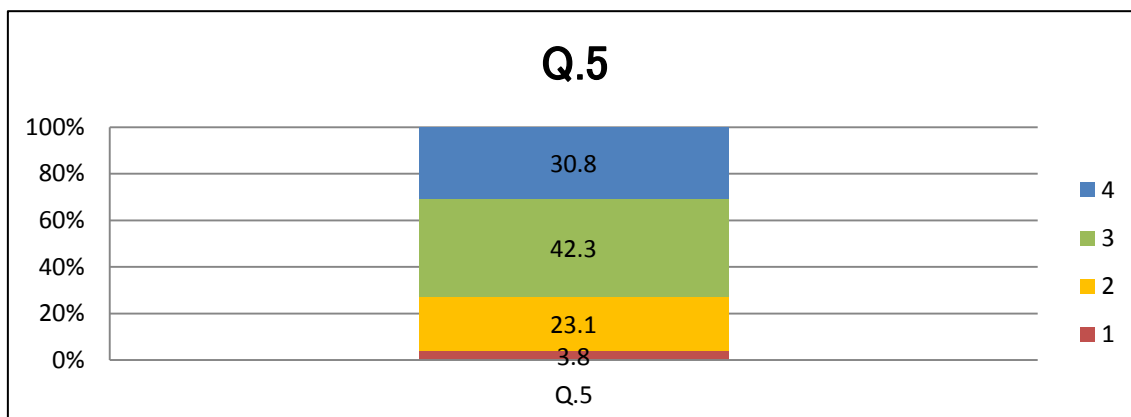
学部全体と比較して，低い満足度はない。

【今後の課題】

学部全体に比べて全体的に評価が高いのは JABEE の効果が大いと思われる。今後も教育の質を高め，維持していくことが今後の課題であろう。中でも注目を引くのが教育カリキュラムにおける「全学教育科目と専攻教育科目の関連性」について評価が低いことである。これは学部全体に言えることであり，学部全体で早急に解決すべき問題と考える。学習研究支援・環境および進学・就職支援に関しては「おおむね満足」が大半を占めている。今後はこれを満足にするための努力が必要であろう。

4) 生物生産システム工学分野 (回収率 41.3%, 卒業生数 63 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は同程度である。

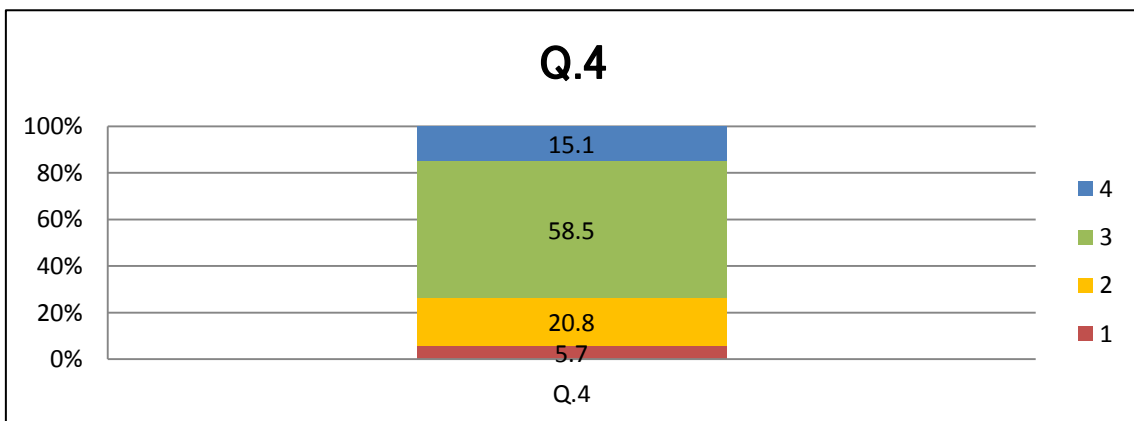
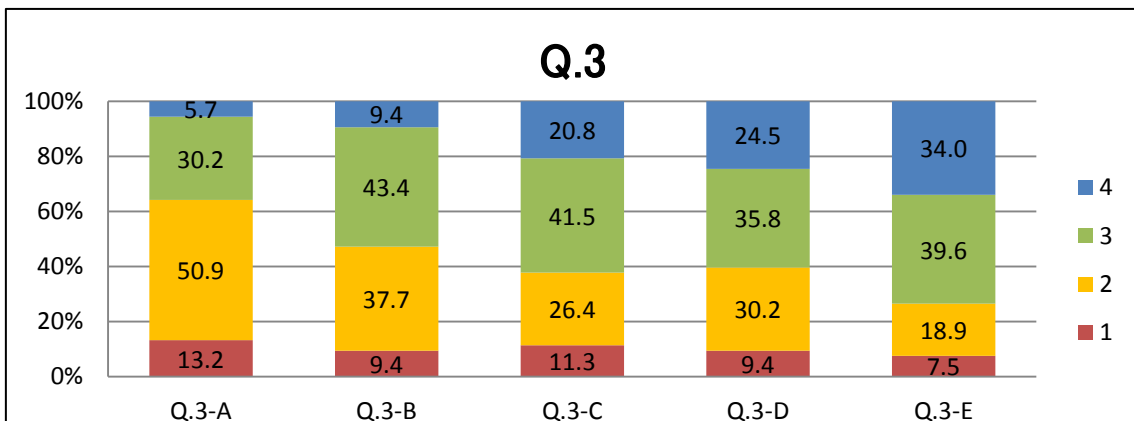
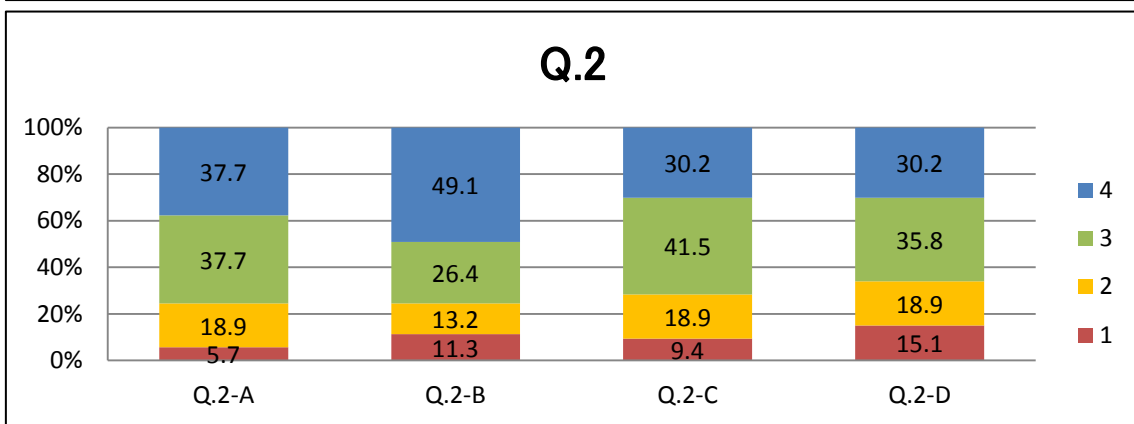
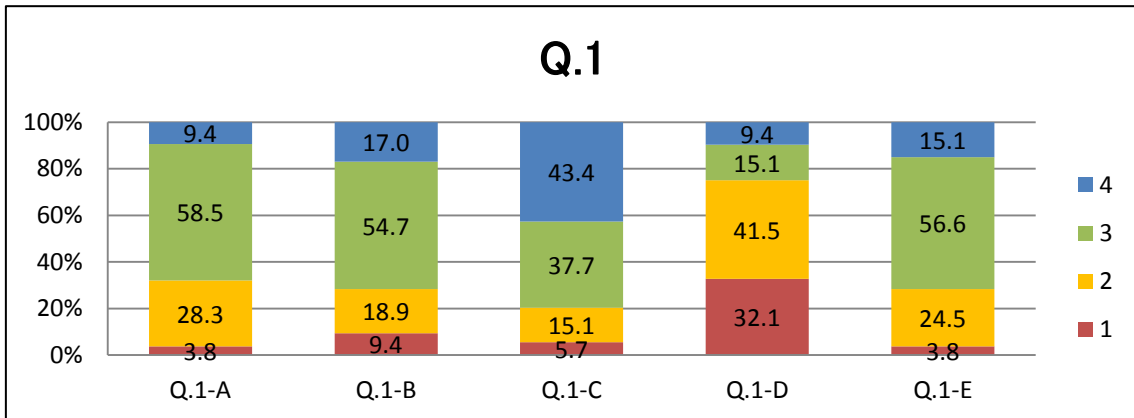
しかし、「情熱をもって授業を行なう教員」、「授業理解度を深めるため多大な努力をする教員」及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度が，学部全体と比較して極めて高い。また，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」，「シラバスの記載内容」，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」及び「卒業研究に対する支援」に関する満足度も高い。

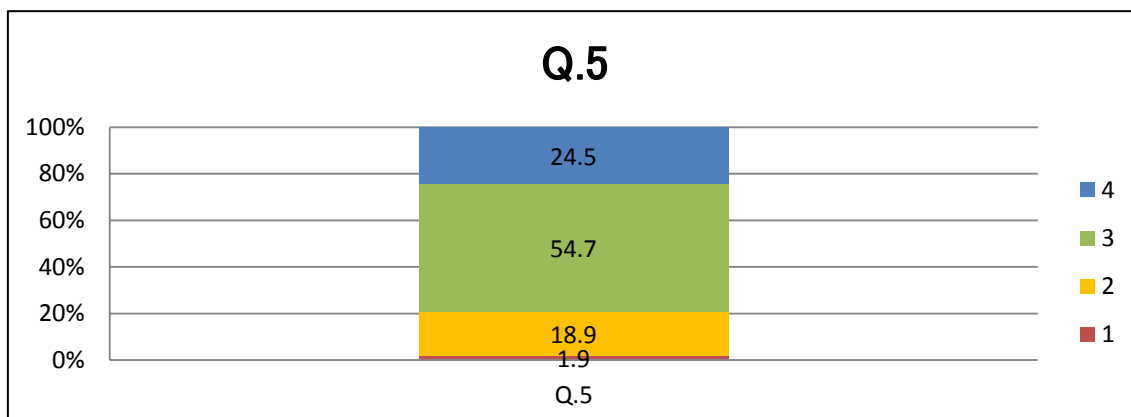
学部全体と比較して，低い満足度はない。

【今後の課題】

当分野の特徴は教員についてならびに進学・就職支援に対する評価が高いことである。これらは今後も維持していく必要がある。一方，教育カリキュラムに関しては学部全体と比べてやや低い傾向にある。「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」についても学部全体よりやや低い評価になっている。すなわち，カリキュラムや研究・学習環境にやや不満があるということであり，今後はこれらに関して満足度をあげる努力が必要であろう。

5) 農政経済学分野 (回収率 48.2%, 卒業生数 110 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は僅かに高い。

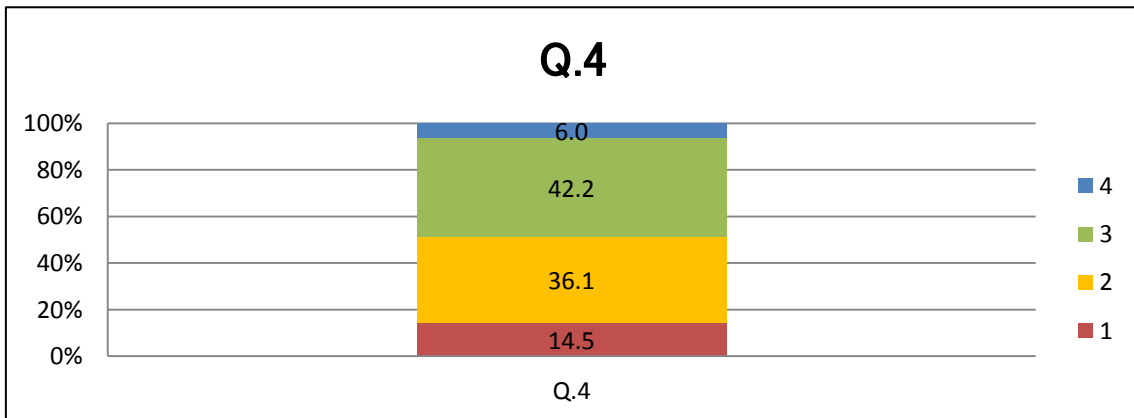
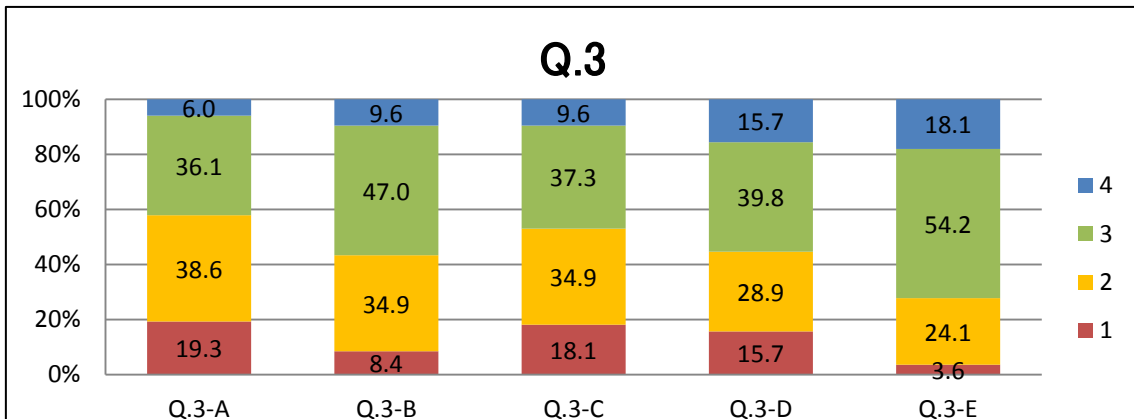
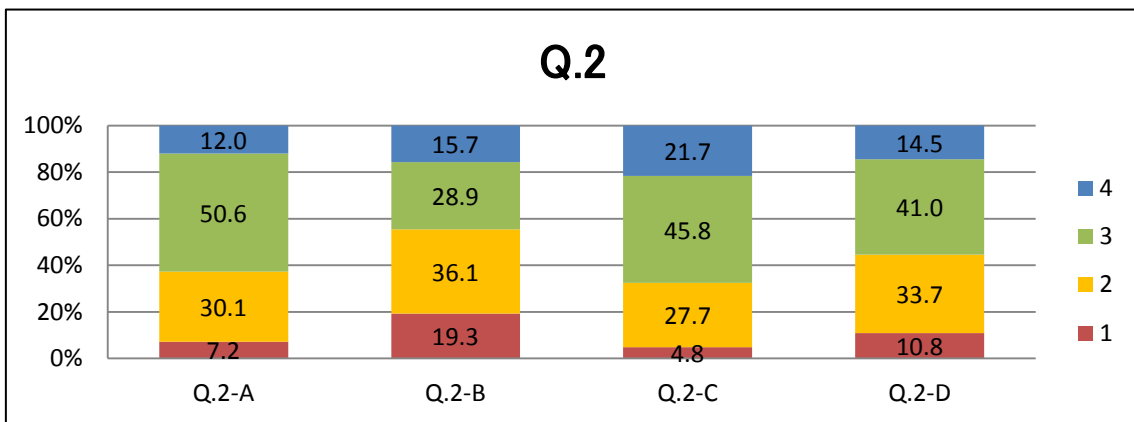
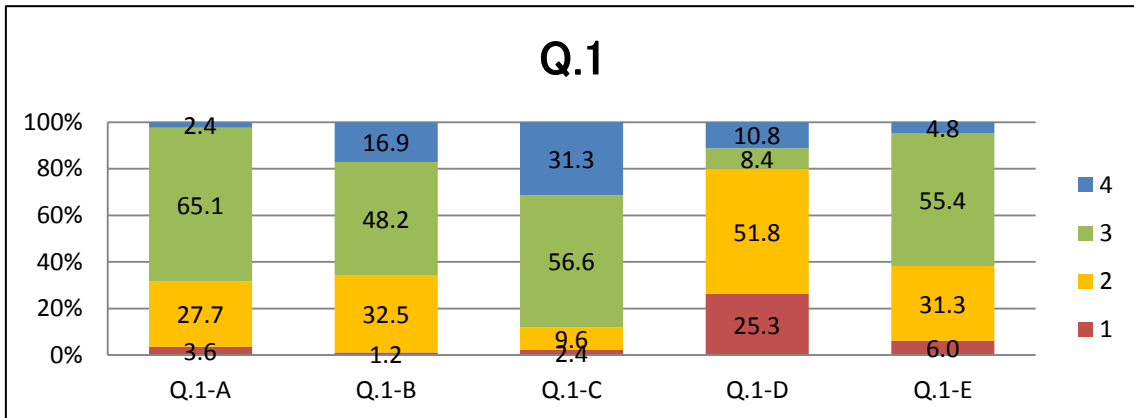
しかし，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度は，学部全体と比較して極めて高い。また，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」及び「成績評価方法の開示」に関する満足度も高い。

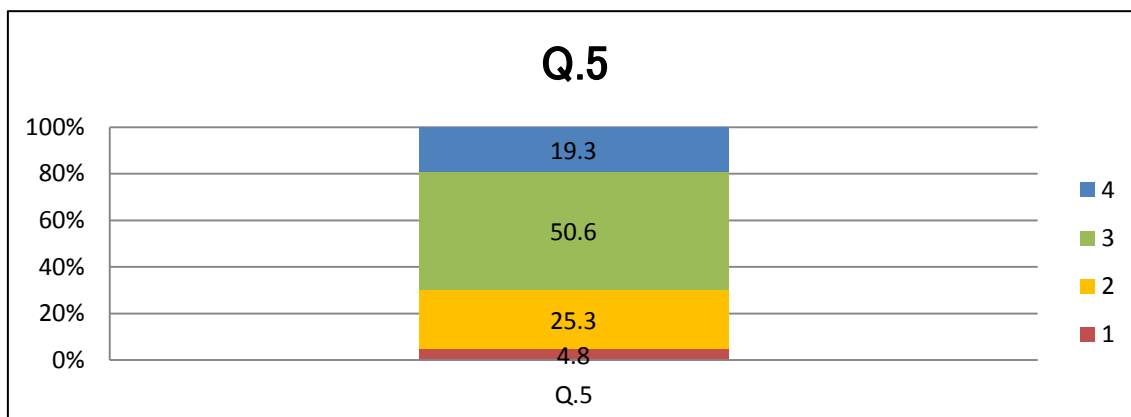
一方，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」に関する満足度は，学部全体と比較して低い。また，「シラバスの記載内容」に関する満足度は特に低い。

【今後の課題】

学部全体と比較して満足度が低い「シラバスの記載内容」及び「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」に関して，改善していくことが今後の課題である。「シラバスの記載内容」に関しては，開講前に，研究室内及び分野内の教員間で相互に，記載内容を検討すること等が必要であろう。また，開講後にも，学生による授業評価の結果等を活用しながら，記載内容をより充実したものに改善していくこと等が必要であろう。一方，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」に関しては，学部全体でもその方法を改善することが必要となるが，学生のニーズにあったオリエンテーションを実施していくこと等が必要であろう。

6) 農芸化学分野 (回収率 49.7%, 卒業生数 167 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は低い。

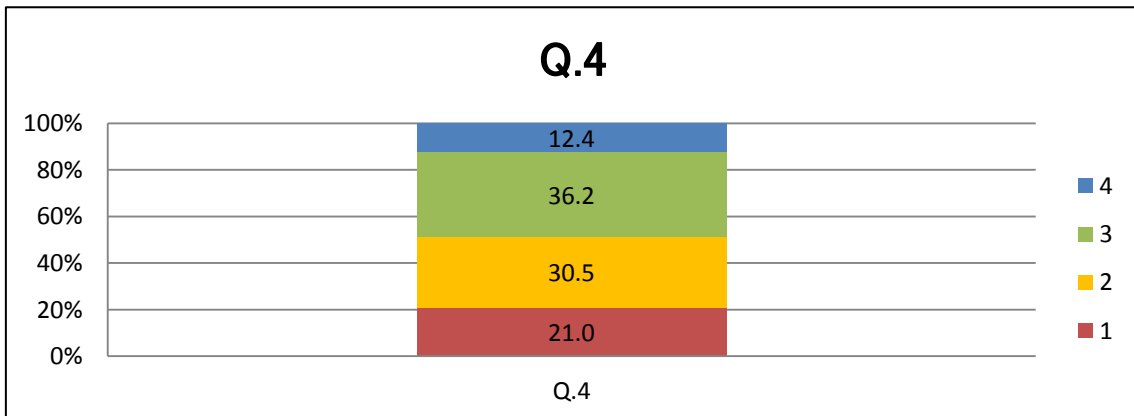
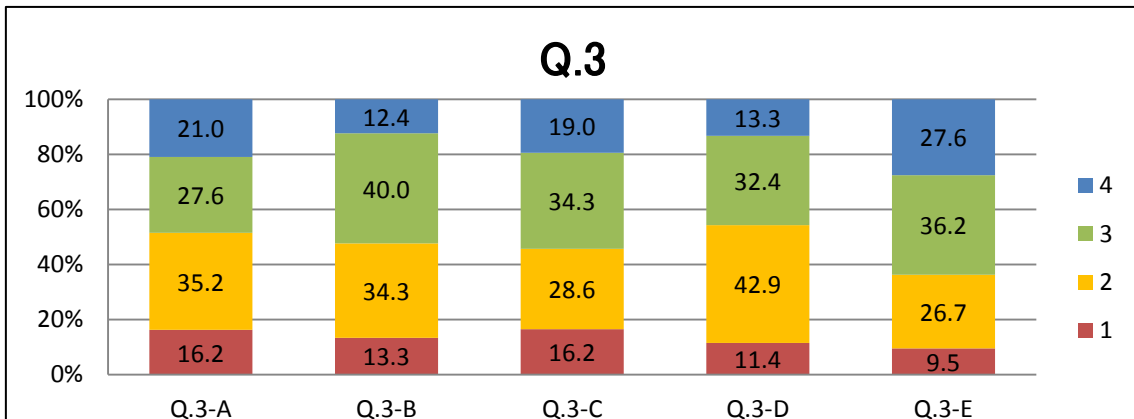
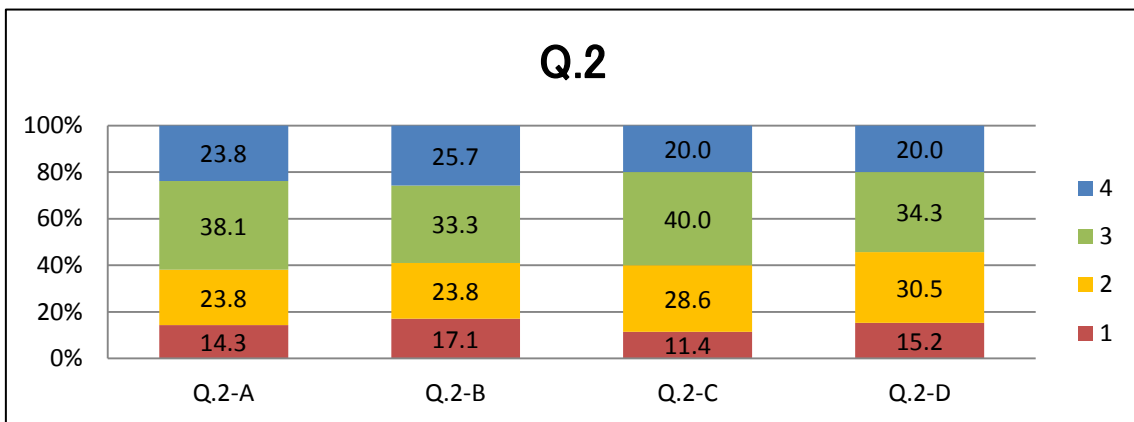
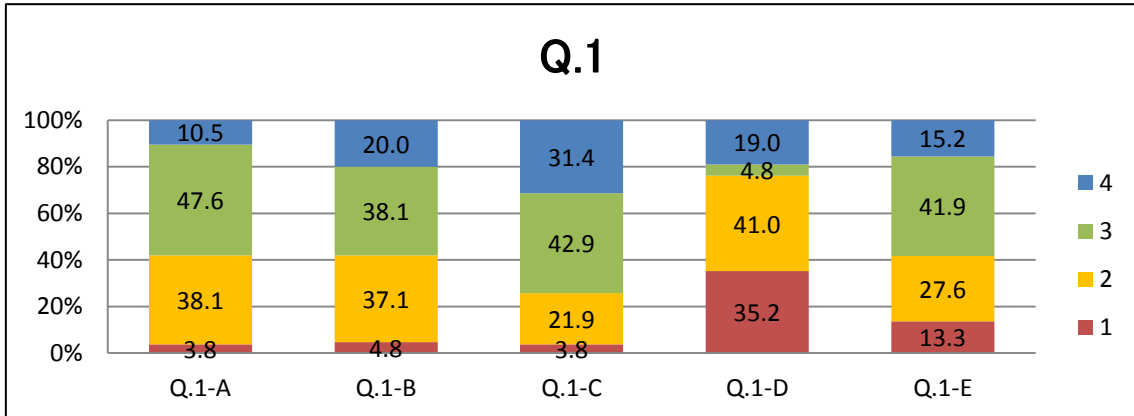
しかし，「卒業研究」に関する満足度は，学部全体と比較して高い。

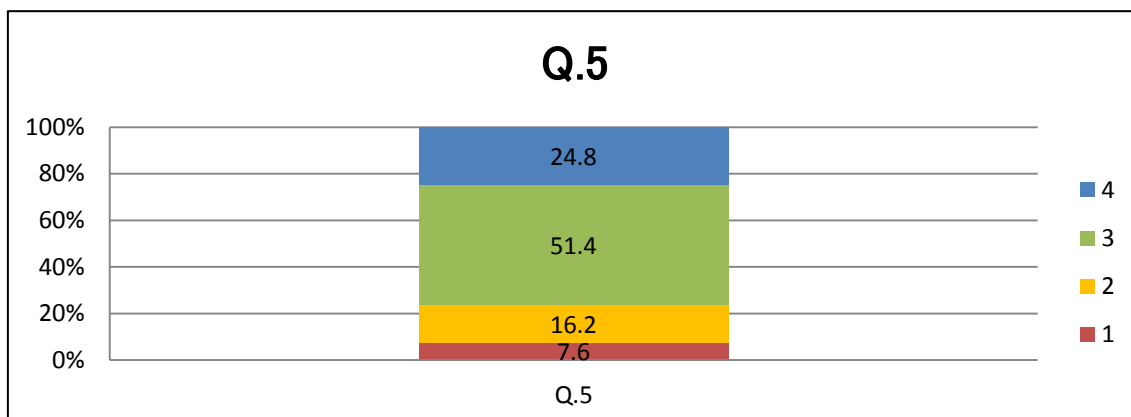
一方，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」，「授業理解度を深めるため多大な努力をする教員」，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度は，学部全体と比較して低い。また，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」に関する満足度は特に低い。

【今後の課題】

学部全体と比較して満足度が低い「教育科目と専攻教育科目の間に関連性を見出せましたか」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員に出会った」，「学生の授業理解度を深めるため多大な努力をする教員に出会った」，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」，及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関して，改善していくことが今後の課題である。全学教育との関連性が見出せたかの項目は，全学教育で行われている内容を，学部教育を行う教員がしっかりと把握して，連続性を持った講義になるように心がけていくようにすべきと考えられる。勉学・研究の動機づけと学生の授業理解度を深めるため多大な努力を惜しまない教育指導を行うことを各教員心がけることが必要と思われる。また，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」について，予算の関係で施設の更新等は難しいと思われるが，必要な機器等は申請をしっかりと行い，今後整備していくことが望まれる。「進学や就職に対する大学側の支援状況」については，事務との連携を含めて対応していくことが必要であろう。

7) 食糧化学工学分野 (回収率 52.5%, 卒業生数 200 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は同程度である。

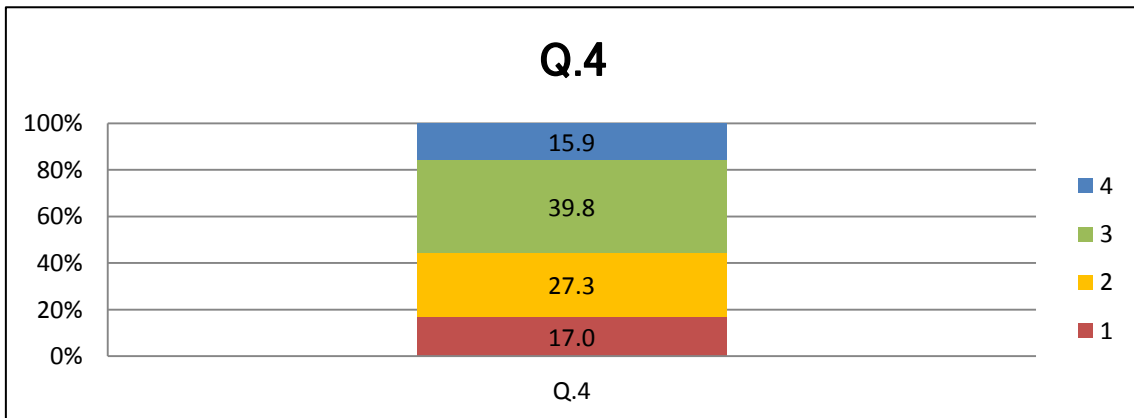
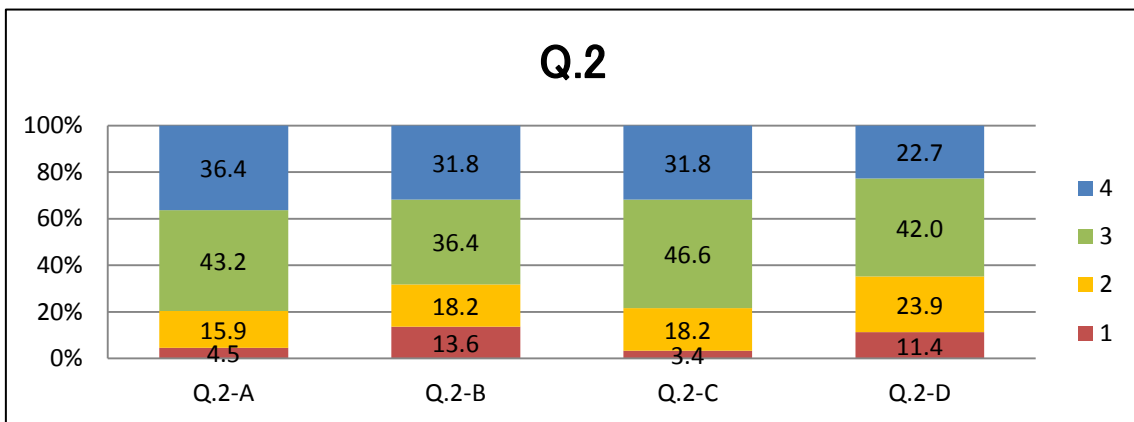
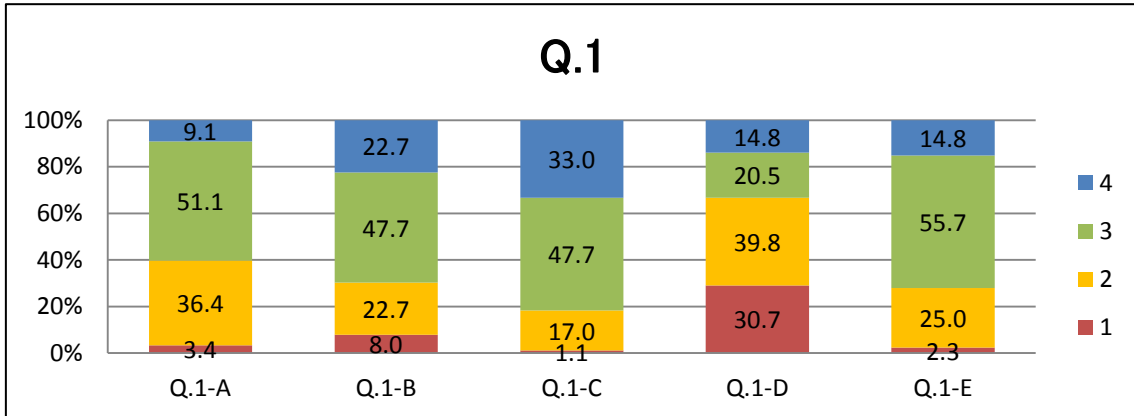
しかし，「専攻教育科目（80 単位分）の講義」，「卒業研究」，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」，「情熱をもって授業を行なう教員」，「成績評価方法の開示」及び「卒業研究に対する支援」などに関する満足度は低く，「専攻教育科目における実験・演習」に関する満足度は特に低いなど学部全体と比較して評価の低い項目が 15 項目中 11 項目と多かった。

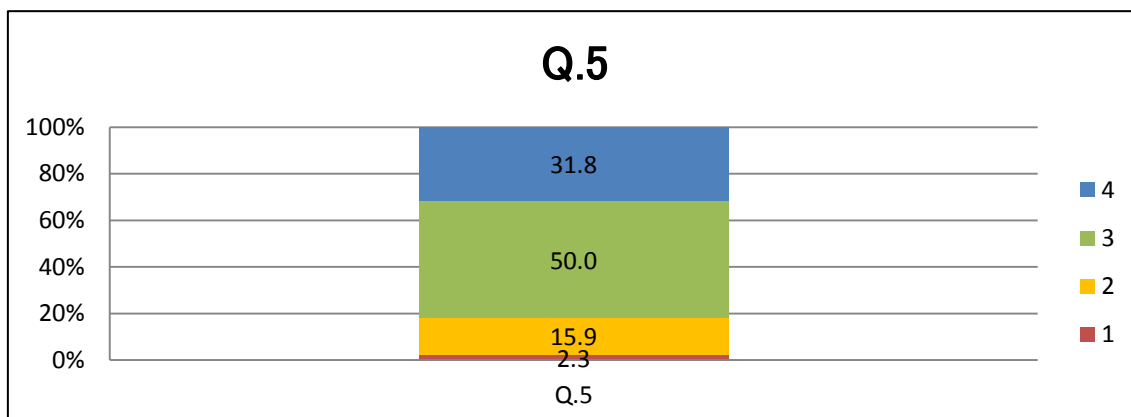
食品という複雑系を理解させ，応用力を涵養するため，他分野に比べ講義および実験・実習ともに科目の種類・内容，実施時間数が多いこと，卒業生数他分野より多いことが学部平均と比べて満足度が低い項目が多かった原因と思われる。

【今後の課題】

評価の低かった「専攻教育科目における実験・演習」，「専攻教育科目（80 単位分）における講義」，「専攻教育科目における卒業研究」，「準備された専攻教育科目の科目数や科目の種類」については，分野教育体系のスリム化，重点化について検討し，改善する必要があると思われる。また，「勉学・研究の動機づけ」，「情熱をもって授業を行なう」，「学生の授業理解度を深めるため多大な努力」及び「卒業研究に対する支援」については，講義の性質や教員の指導方針等が異なるため，普遍的な解決策はないが，この事実を各教員が真摯に受け止め今後の教育研究指導へ活かすことが必要であろう。「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」，「成績評価方法の開示」に関しては，分野長が確認・指導できる体制を構築する必要がある。

8) 地球森林科学コース (回収率 44.7%, 卒業生数 197 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は高い。

「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」に関する満足度が，学部全体と比較して極めて高い。また，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」，「情熱をもって授業を行なう教員」及び「卒業研究に対する支援」に関する満足度も高い。

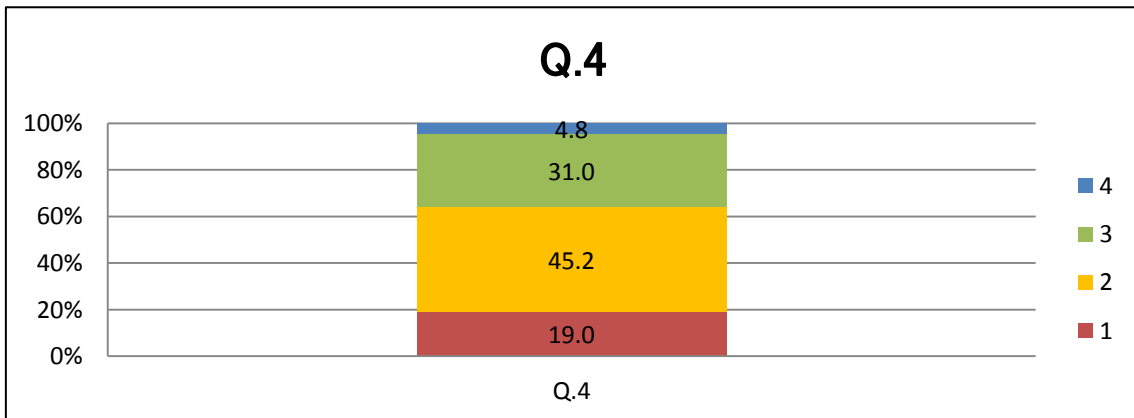
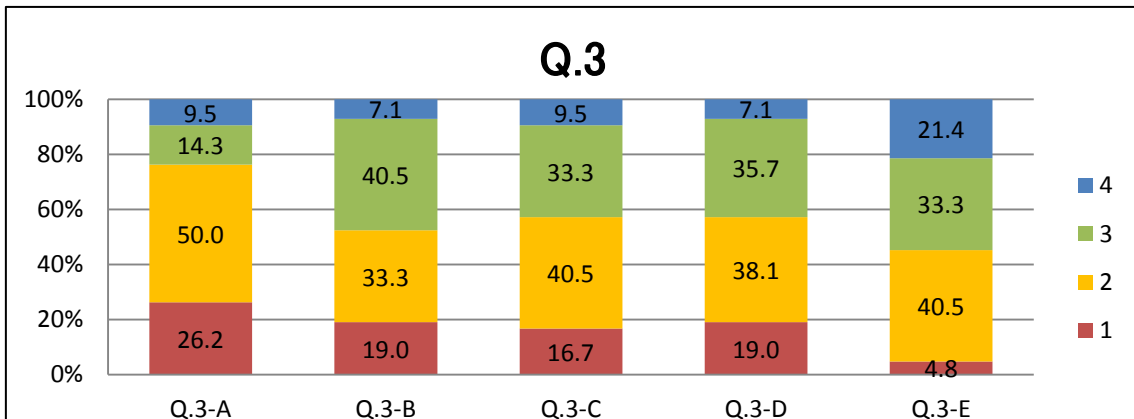
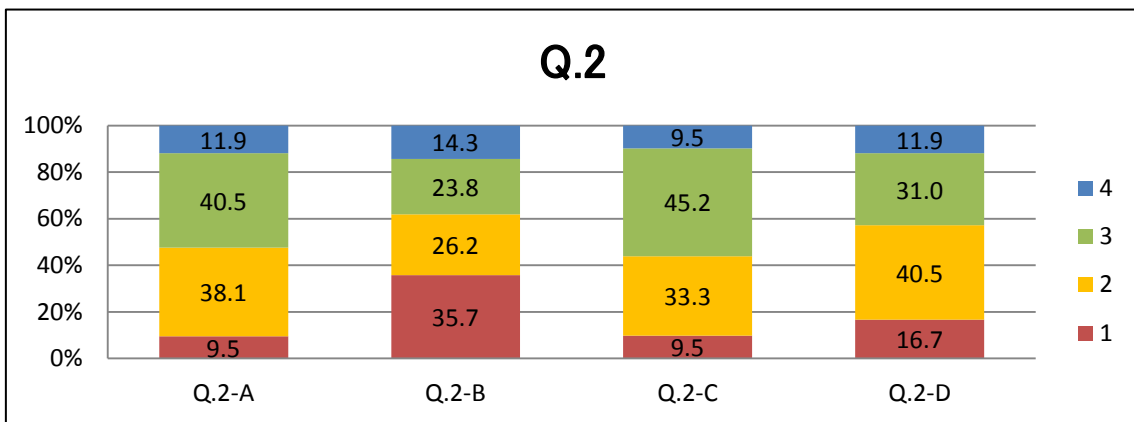
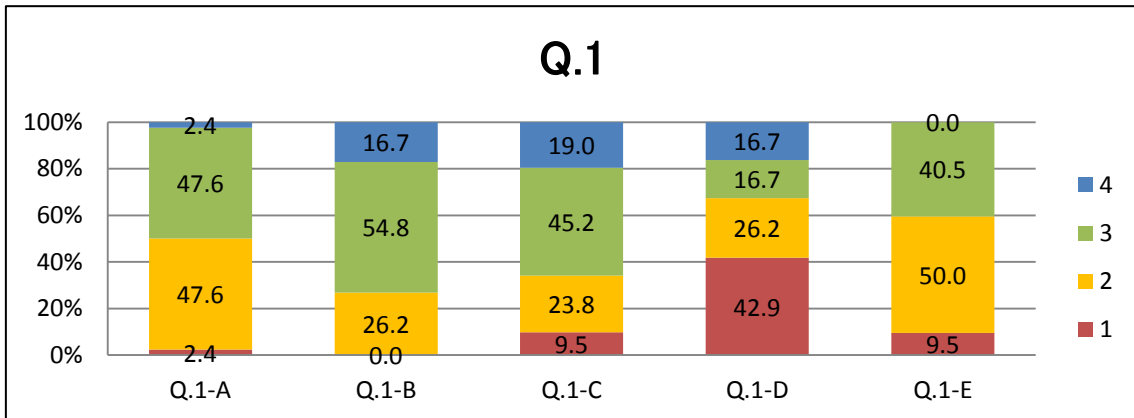
一方，「成績評価方法の開示」に関する満足度は，学部全体と比較して低い。学部全体と比較して，特に低い満足度はない。

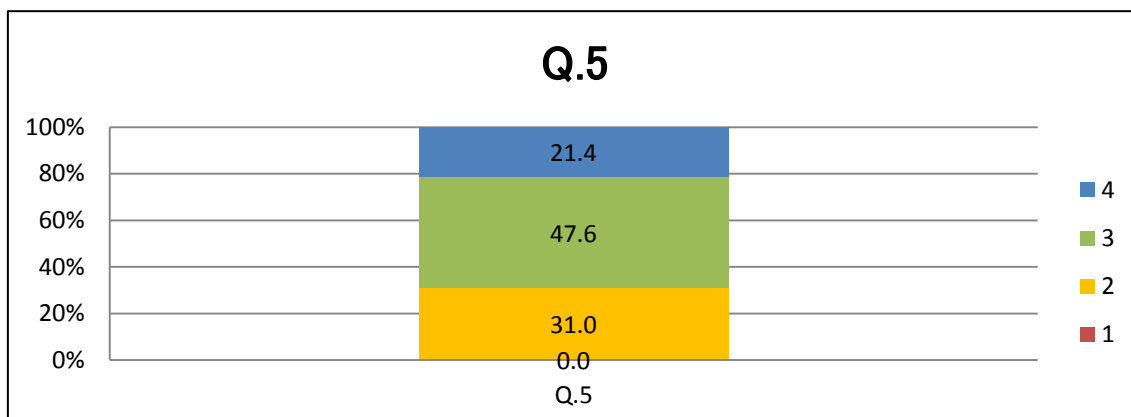
【今後の課題】

学部全体と比較して満足度が低い「成績評価方法の開示」に関して改善していくことが今後の課題である。これまで以上に，各教員へ周知徹底するとともに，分野長・コース長が確認・指導できる体制を構築する必要がある。

引き続きこの満足度レベルを維持できるよう学生へ対応していくことが重要であろう。

9) 畜産学分野 (回収率 49.4%, 卒業生数 85 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は低い。

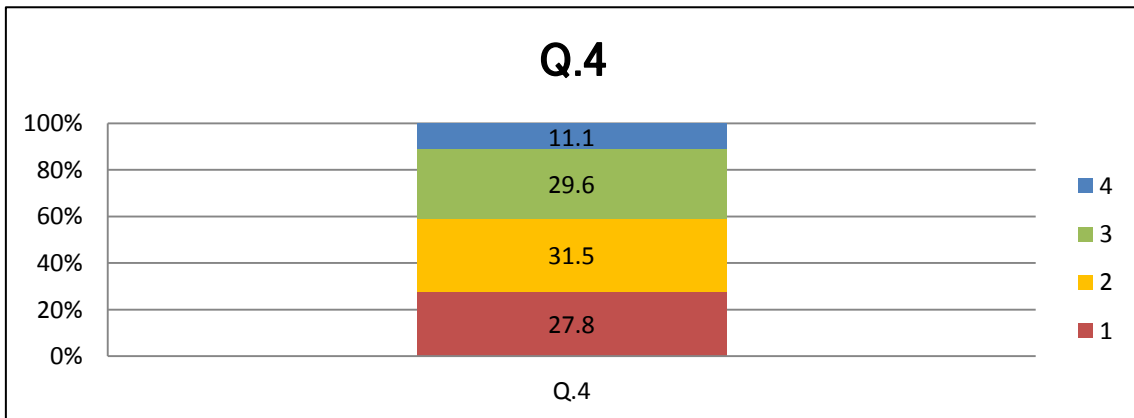
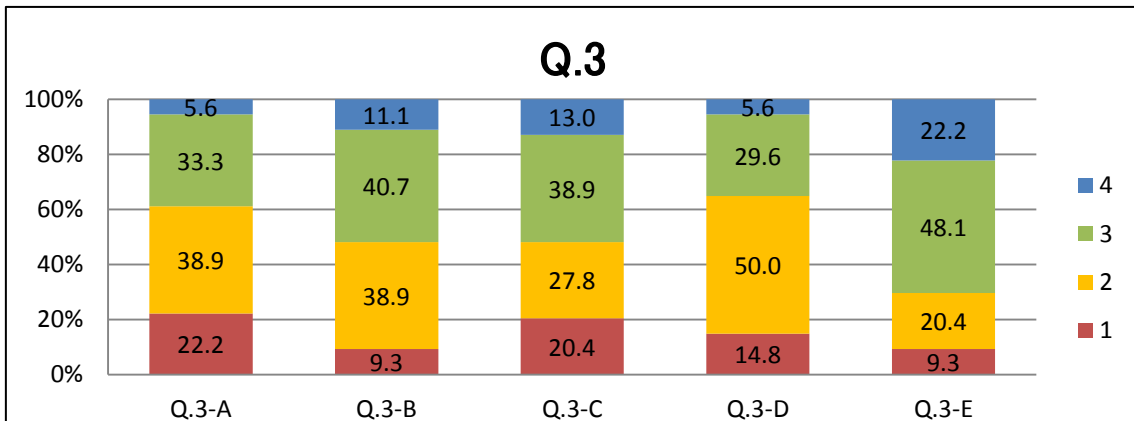
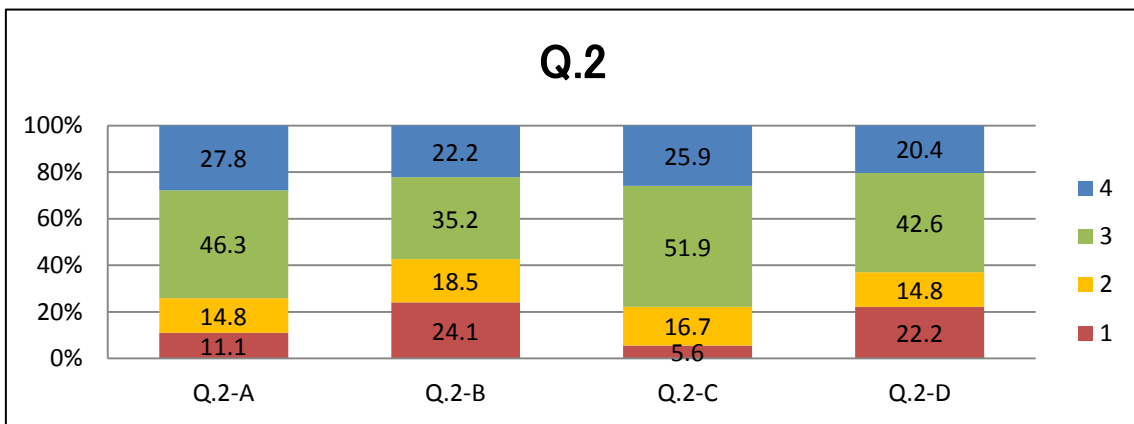
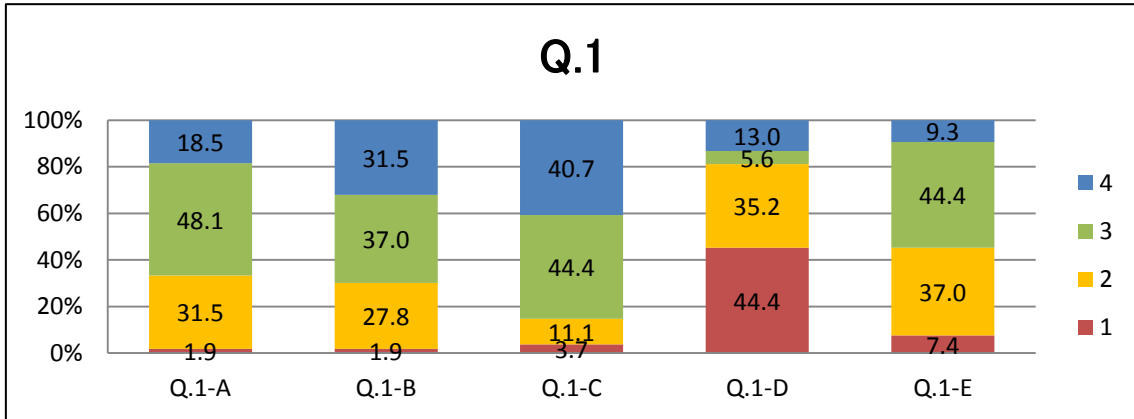
しかし，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」に関する満足度は高い。

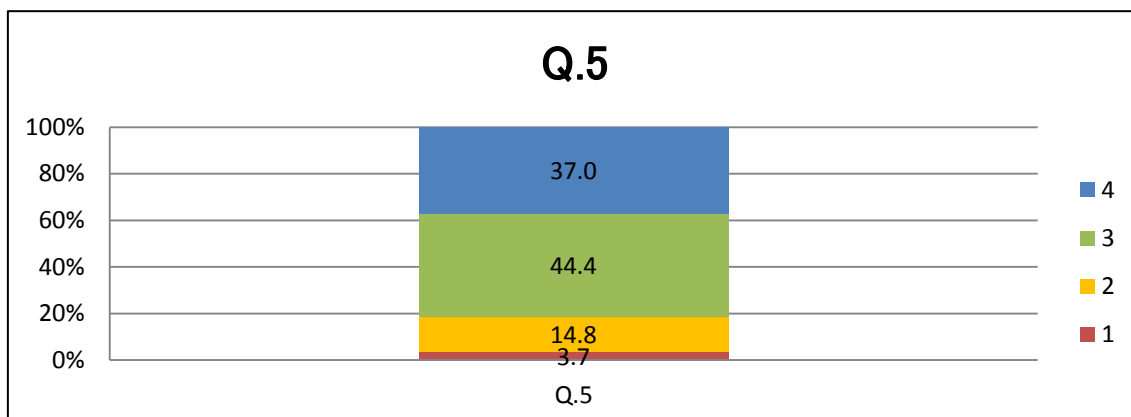
一方，「専攻教育科目（80 単位分）の講義」，「卒業研究」，「準備された専攻教育科目の数や種類」，「教員についての全項目」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」，「学習方法などに対して助言をしてくれる教員」，「情熱をもって授業を行なう教員」，「授業理解度を深めるため多大な努力をする教員」，「学習研究支援・環境の全項目」，「シラバスの記載内容」，「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」，「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」，「成績評価法の開示」，「卒業研究に対する支援」，及び「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度が，学部全体と比較して特に低い。

【今後の課題】

今回の卒業生等満足度調査アンケートの結果，学部全体と比較してほとんどの項目において満足度が低かったことから，本分野に対して卒業生が求めていたことが学部全体の水準には至っていなかったものと判断せざるを得ない。注目すべきは専攻教育科目と卒業研究に対して有意義なものではなかったとする回答の割合が高かったことであるが，これは教員に対する評価の低さとも関係している可能性が考えられる。今回の調査内容ではどの科目，どの卒業研究テーマに対する満足度が低かったのか具体的に分からないため，個別に対応することが困難であるが，今後の卒業生の満足度を高めるためには教員の意識改革や教育カリキュラムを再検討する余地があるものと思われる。

10) 水産学分野 (回収率 57.4%, 卒業生数 94 人)





【分析結果】

学部全体と比較して，総合判定は高い。

「卒業研究」，「勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員」及び「情熱をもって授業を行なう教員」に関する満足度が高い。

一方，「全学教育科目と専攻教育科目との関連性」，「準備された専攻教育科目の数と種類」，「シラバスの記載内容」及び「コース，分野の選択に際してのオリエンテーション」に関する満足度は，学部全体と比較して低い。また，「成績評価方法の開示」，「進学や就職に対する大学側の支援状況」に関する満足度は特に低い。

【今後の課題】

全体的に見て全分野との比較で満足度が低かった項目は，学生に対するオリエンテーション，成績，進路に関することであった。今後は各教員が授業や実習を行う際に，授業のねらいや成績評価方法などの説明を徹底することや，分野・研究室配属，進路・就職に関するオリエンテーションを充実させることが必要である。また，当分野に限ったことではないと思われるが，成績が出るのが遅いという指摘があったので，この点に関しては当分野でも積極的に改善すべきである。